

シカ捕獲プロフィール

(九州局) 大分森林管理署

1. 署の基本情報

① 署の基礎的情報

管内面積	29,318.00ha		
シカ生息密度	10頭/km2以上30頭/km2未満		
管内市町村数	6		
	R3	R4	R5
更新面積	19.04ha	15.76ha	28.95ha
人工造林面積	19.04ha	15.76ha	28.95ha
シカによる森林被害面積	0.00ha	7.23ha	0.00ha
うち、人工林被害面積	0.00ha	7.23ha	0.00ha

※1

④ 協定・協議会数

		R3	R4	R5
わな貸出	協定	5	5	5
	協議会			
その他	協定	鍵貸与		
		除雪等		
	その他			
	協議会			

② 署のシカ捕獲等対応体制

担当職員	地域林政調整官		
	森林技術官(森林育成)、事務管理官(管理)		
	R3	R4	R5
全職員数	34人	32人	32人
わな講習受講者数	6人	10人	14人
狩猟免許所持職員数	0人	0人	0人

※2

⑤ 捕獲の方法、実施時期

		R3	R4	R5
改良型わな等	小林式			○
	こじゃんと			
	その他			
くくりわな		○	○	○
囲いわな		○	○	○
銃(モバイルカリング等)				
・ 捕獲実施時期				
職員実行	4月～3月			
委託事業	10月～2月			
協定	4月～3月			

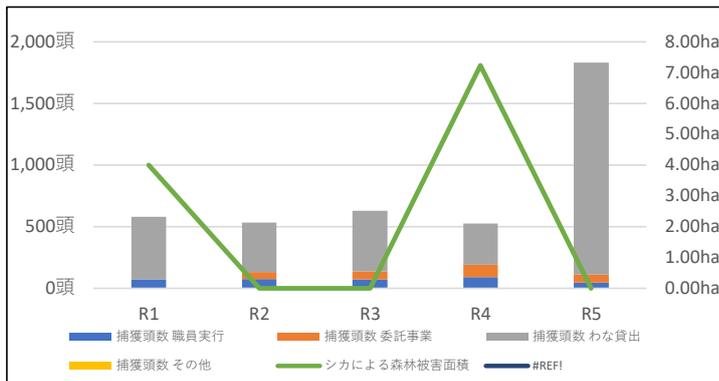
⑥ 捕獲以外の被害対策

シカ防護柵実施有無	有
シカ忌避剤使用有無	無

③ 捕獲実行形態

		R3	R4	R5
職員実行		○	○	○
委託事業		○	○	○
わな貸出	協定	○	○	○
	協議会			
その他	協定	鍵貸与		
		除雪等		
	その他			
	協議会			

2. 捕獲頭数とシカによる森林被害面積の推移



		R1	R2	R3	R4	R5
捕獲頭数	職員実行	73頭	77頭	72頭	91頭	47頭
	委託事業		54頭	66頭	103頭	63頭
	わな貸出	506頭	403頭	490頭	333頭	1,721頭
	その他					
	計	579頭	534頭	628頭	527頭	1,831頭
シカによる森林被害面積		4.00ha	0.00ha	0.00ha	7.23ha	0.00ha

★森林被害対策のワンポイントアピール

- ①職員実行による捕獲
 年々現場系の職員が減少し、捕獲体制が厳しくなっていることから、令和2年12月にICT機器(長距離無線式捕獲/パトロールシステム)親機1基、子機55器を導入しています。
 また、大分県との連携し、県が親機を4基設置したことにより、大分署管内の全域がICT機器の受信が可能となり、見回り労力の軽減及び錯誤捕獲の解消に繋がっています。
 ⇒「4. 職員実行」をご参照ください。
- ②わな等貸与による捕獲
 平成29年からシカ被害対策協定を5件締結し、くくり罠等の貸与に取り組んでいます。
 また、令和7年2月に新たな地域(佐伯市宇目地域)と協定を締結し、協定者にICT機器(長距離無線式捕獲/パトロールシステム)の子機の貸与を行い、猟友会の見回り労力の軽減等を図ることにしています。
 ⇒「5. わな貸出(協定・協議会)」をご参照ください。

※1 シカによる森林被害面積は、森林被害年報における実損面積です。

※2 当該年度にわな講習を受講した人数。

3. 署長が語る

○大分森林管理署管内の地勢

大分森林管理署は、大分県中部流域(大分市、臼杵市、竹田市、豊後大野市、由布市)、南部流域(佐伯市)の6市に所在する国有林野約2.9万haの管理経営を担っています。

管内の国有林野は、くじゅう連山、由布岳、祖母・傾山系など九州有数の山岳地帯に分布しており、優れた自然景観に恵まれるとともに、ニホンカモシカなど希少な動植物が生息するなど豊かな自然環境を有しています。

県内のニホンジカによる農林業への被害状況は、平成30年度は19.2千万円を超える被害額でしたが、令和5年度はシカ防護柵の設置や捕獲対策が進んだことにより14.1千万円台(農業被害80%、林業被害15%、水産その他被害5%)で推移しています。

また、管内のニホンジカの生息分布(県調査による推定生息密度)は、県央地域の竹田市北部、由布市南部で33.7頭/km²、祖母傾山地域の豊後大野市南部、竹田市南部で34.1頭/km²と適正頭数3頭/km²の10倍以上と高くなっています。

管内の国有林においても、造林木や下層植生へのシカによる食害が継続して発生しており、森林・林業への深刻な被害を防止するため、地域の関係者と連携を図りながら、個体群管理(捕獲)、防護柵の設置、被害を受けた森林の回復、効果的な捕獲技術の普及等の有効な手段を組み合わせた対策を総合的に推進しています。

○職員による捕獲、新植・天然生林の保護対策

森林官及び行政専門員を中心に捕獲業務に取り組んでいますが、全体の裾野を広げるため全職員を対象とした、わな講習会の実施のほか、局主催のシカ捕獲研修や、大分県主催の鳥獣被害アドバイザー研修等に若手職員を参加させ、捕獲技術の習得はもとより獣害対策意識の向上等にも取り組んでいます。

職員実行による捕獲は、わなの見回りに大きな労力を要することが課題でしたが、令和3年よりICT機器(長距離無線式捕獲パトロールシステム(通称:ほかパト))を導入し、見回り労力の軽減を図りました。これによりわなの設置箇所数を増やすことができ捕獲頭数も増加するなど、業務の効率化に繋がっています。

新植箇所の造林木や天然生林の下層植生をシカの食害から守るための防護柵の設置にあたっては、資材別のコストや設置効率の比較、設置方法の検証を行うなど、低コストで効率的な設置に取り組んでいます。

○委託による捕獲

祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域の周辺においては、シカによる食害により、下層植生の衰退や消失も見られ、国土保全や生物多様性保全などの公益的機能の発揮への影響も懸念されることから、委託事業(国土保全のためのシカ捕獲事業)によるシカ捕獲に取り組んでいます。

○協定による捕獲

平成29年度より管内の4市(竹田市、由布市、豊後大野市、佐伯市)とシカ被害対策に係る協定を締結しています。協定は、署、市及び地元猟友会の3者で締結し、わなの貸与等について市が猟友会からの窓口となって署に依頼する仕組みです。協定による捕獲頭数は全体の8割を占めており、地域と連携したシカ捕獲に取り組んでいます。

令和6年度は新たな地域(佐伯市宇目地域)と協定を締結し、くくり罠に加え新たにICT機器(ほかパト子機)の貸与を行い、国有林とその周辺の民有林及び農地を含めた地域を協定区域に設定し、シカ捕獲強化への取組を進めています。

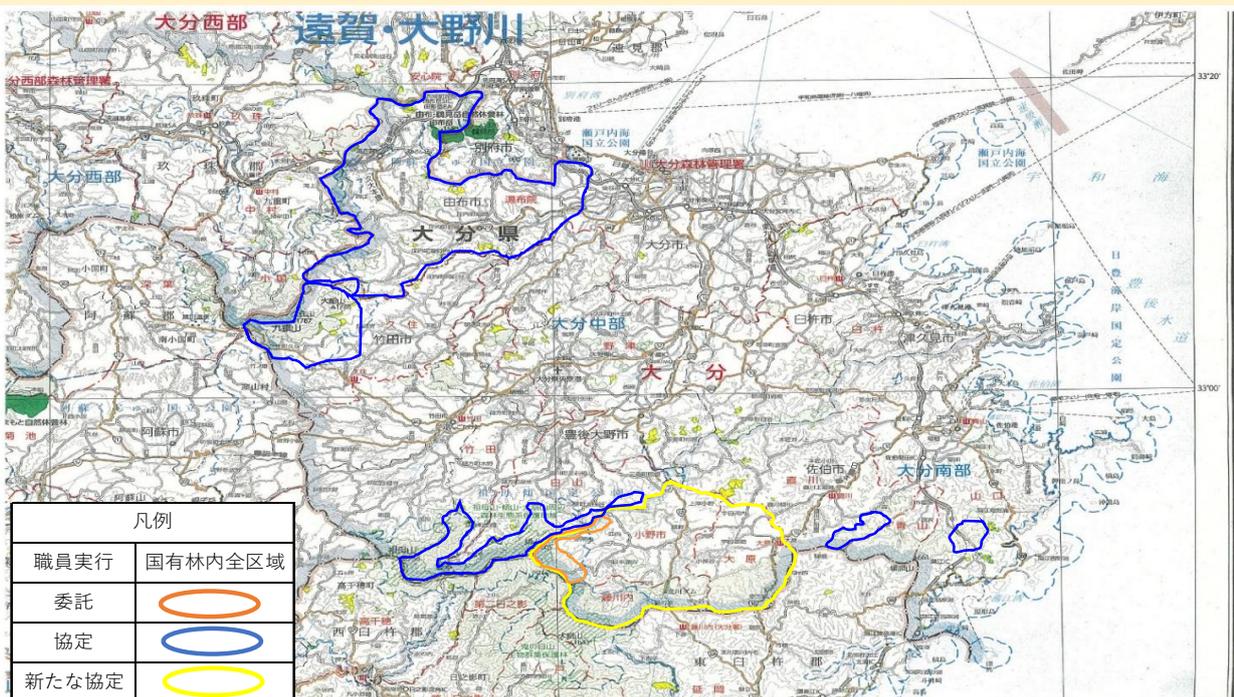
署長:坪木 直文(令和4年4月1日～)

R3 近畿中国局 岡山森林管理署長

R4 現職

R5 現職

管内図(次ページに拡大図を掲載)





親機設置状況

◆ICT機器(長距離無線式捕獲パトロールシステム)の導入

ICT機器(長距離無線式捕獲パトロールシステム)を導入し、わなと連動させることで、獣がわなにかかると位置と捕獲時間が特定され、子機から親機を通じて職員のパソコンやスマートフォンにメールにて通知され、見回り作業が軽減されてます。



子機設置状況



親機点検状況



くくりわなに捕獲されたシカ



シカによる剥皮被害状況

◆防護柵の設置方法による効果の検証

植付箇所の造林木をシカ被害から保護するため、防護柵の設置に取り組んでいますが、防護柵設置後は、ネットの切損・破損箇所からの侵入や押さえロープを持ち上げての侵入が多く見られるため、これらを防ぐために、斜め張りのネットを緊張して張らず、防護ネットの最下部から約50cmの位置から低コスト資材のネット(幅1.5m)を余裕を持たせ緩く重なるように斜めに設置する方法で補修を行うなど、その設置方法による効果の検証に取り組ん



シカによる食被害状況



防護柵の最下部から約50cmの位置に低コスト資材のネット(1巻50m幅1.5m)を余裕を持たせ緩く重なるように斜めに設置した状況

シカ食害からの天然生林の保護対策

祖母山から傾山に至る祖母傾山系から新百姓山、夏木山、桑原山へと続く大分県と宮崎県の県境の稜線部周辺は、アカガシ、ウラジロガシ等の常緑広葉樹林から冷温帯湿潤気候の極相であるブナ林など、我が国の気候帯を代表する原生的な天然林がまとまって存在し、特別天然記念物に指定されているニホンカモシカなども生息しており、森林生態系からなる自然環境の維持や野生生物の保護、遺伝資源の保存等を目的に「祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域」に設定しています。

しかしながら、シカによる食害により、下層植生の衰退や消失も見られ、次代を担う稚樹の育成が図られず、植生遷移や健全な森林としての維持、国土保全、生物多様性保全などの公益的機能の発揮への影響も懸念されることから、定期的にモニタリング調査を行い、シカの食害から天然生林を保護するため、平成20年度から防護柵の設置に取り組んでい



天然生林でのシカによる剥皮被害の状況



傾山山頂付近のシカ食害により下層植生が消失した状況



防護柵の押さえロープを持ち上げ侵入された後の状況



防護柵の設置により下層植生が保護されている状況



防護柵下部からの侵入防止ネット設置前の状況



防護柵下部からの侵入防止ネット設置後の状況

4. 職員実行

① 基本情報・トピック

わな講習受講者 30人
狩猟免許所持職員数 0人

実施職員の構成

地域林政調整官、各森林事務所森林官(地域統括・首席含)、各森林事務所行政専門員

を 無

★署として工夫していること、ポイント
・ICT機器(長距離無線式捕獲パトロールシステム)を導入し、見回り労力の軽減を図っています。

② 安全対策

- ・安全講習会の実施
- ・緊急連絡体制表の作成
- ・ダニ対策・・・服装チェック、忌避スプレーの携行

③ 職員実行の流れ

実施期間・時期の決定

・通年実施できるよう許可を申請しています。(年2回申請)

実施場所の決定

・新植地周辺、シカの目撃が多い場所など、効率的に捕獲が可能な場所を選定しています。

わなの設置

・「笠松式わな」を使用しています。
・ICT機器(長距離無線式捕獲パトロールシステム)を導入しています。

見回り

・森林事務所の現場管理業務と一体的に実施しています。
・ICT機器(ほかパト)捕獲通知があった場合には、優先的に対応しています。

ボトルネック(※3)

- └ 人工の確保
- └ 作業時間

改善策(※4)

└ ICT機器(長距離無線式捕獲パトロールシステム(ほかパト)の導入

止めさし

・職員実行では、電気止めさし器、止めさし槍等を使用しています。
・銃の使用については、猟友会に要請しています。

ボトルネック

- └ 精神的苦痛
- └ 猟友会当日不在

改善策

└ 職員の意思確認
└ 猟友会との協力

処理・埋設

・林内に埋設穴(直径1m、深さ1m)を作成し、埋設しています。
・ジビエの利用はありません。

ボトルネック

- └ 埋設穴の作成
- └ 捕獲個体の運搬

改善策

└ 小型ウインチ導入

前年度の実績(森林被害面積抑制、捕獲頭数増加)を更に伸ばすために予定していること

・昨年に引き続き、全職員を対象としたわな講習会の実施のほか、局開催の研修会や大分県主催の鳥獣被害アドバイザー研修等に職員を参加させ、捕獲技術等の向上を図ることとしています。

※3 全体に影響する問題要因で最も問題視される要因のことです。本票では各取組業務を妨げる要因として取り扱います。

※4 ボトルネックを解消するための方法です。

